

事業所名

放課後等デイサービス あらかると

支援プログラム

作成日

R6

年

12月

23日

法人（事業所）理念		①私たちは、地域社会のなかで、だれもがいいきと生活できるよう施設づくりの運動を行っています。 ②私たちは、障がいの種別や程度、発達段階が十分に配慮され、一人ひとりにあった生活・労働・医療が受けられる施設をめざします。 ③私たちは、「障害者の完全参加と平等」を地域の人びととともに築いていきます。					
支援方針		・視覚的構造化を用いた活動プログラム設定と、ジェネラリストソーシャルワークの展開。 ・学校から家庭へ帰るまでの「ほっとできる居場所」の提供。					
営業時間（学校開校日）	下校後	から	17時	まで	送迎実施の有無	あり	なし
営業時間（学校休校日）	9時	から	16時	30分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支援内容（本人支援の内容と5領域の関連性）							
本人支援	健康・生活	・健康状態の把握に努め、変化がある場合は職員間で共有、保護者に連絡します。 ・視覚的構造化や行動療法を用い、生活スキル獲得の支援を実施します。					
	運動・感覚	・身体能力の維持・向上のため、適度な運動の機会を実施します。 ・感覚を十分に活用できる遊び（ハンモックやメロディック、レゴ等）を発達段階にあわせて提供します。					
	認知・行動	・職員が子どもたち一人一人の認知の特性や偏りを把握し、活動を通して環境整備・構造化を行い、子どもたちが適切に情報を処理できるように支援します。 ・子どもたちの発達にあわせた自立課題を提供し、数量・大小・重さ・色・空間認識・時間認識等が身に付くように支援します。					
	言語・コミュニケーション	・子どもの発達にあわせたコミュニケーション手段を活用し、「伝達すること・伝達できたことの喜び」を感じることで成功体験が得られるように支援します。 ・ジェネラリストソーシャルワークの視座を活用し人と環境との相互作用の中で発生する「生活のしづらさ」をコミュニケーションにより解消されるよう支援します。					
	人間関係・社会性	・職員との信頼関係を構築し、職員を介して他者（他児童）と関わることで適切な人間関係を構築できるように支援します。 ・ABAの理論や知見を応用し、環境整備も含めた適切な人間関係の構築や集団への参加、社会性の獲得を支援します。					
家族支援	・ご家族からの要望はもちろんのこと、事業所側で必要と判断した場合も含め、子どもの発達や課題、包括的な視野に立った個別面談を随時行います。 ・年に2回、利用児のご家族を対象とした専門職（臨床心理士）による発達相談会を開催します。				移行支援	・ライフステージの切り替え、特に卒業後の進路を視野に適切な自立課題を提供し、移行に向けた体制を整えます。 ・具体的な移行先がある場合は、移行先との連絡調整、情報の共有化はもちろんのこと、移行先の活動にあわせたプログラムを設定します。	
地域支援・地域連携	・地域での生活が円滑に進むよう、ジェネラリストソーシャルワークの視点から相談援助を推進します。 ・学校や相談支援事業所、保険・医療機関等の関係者と連携し、地域の中での居場所づくりを推進します。				職員の質の向上	・職員の知識・技術の向上のためOJTを積極的に実施します。 ・職員の質の向上を図るため、3月、6月に資質向上研修（Off-jt）を開催します。	
主な行事等	・ひな祭りや端午の節句、プールなど通常活動の中で季節にあわせた活動。 ・夏祭り、クリスマス会など通常活動とは別に組む特別活動。						